

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 三郎丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

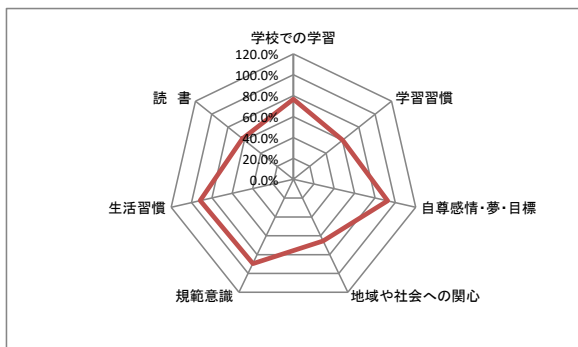
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの領域にも課題がある。特に「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域に大きな課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」問題では、正答率が70%で全国平均に近づいた。普段から発表する力がついてきていると考えられる。	
	努力が必要な問題	「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題では、無回答率が多かった。条件をつけながら自分の考えをまとめる習慣を身に付けていく必要がある。	

算数	全体的な傾向や特徴など	どの領域にも課題がある。特に「量と測定」「数と計算」領域では、大きな課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる」問題では、正答率が96%で全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	求め方や理由を記述する問題では、無回答率が目立つ。記述の仕方と基礎的な計算力を身に付けていくことが課題である。まずはスキル学習で計算力を上げていく必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・「自尊感情」に関しては、全国平均を上回っている。児童会活動・たてわり活動を中心として、自尊感情を高める取り組みの成果だと言える。</p> <p>一方、生活習慣・学習習慣に関しては大きな課題を抱えている。不規則な生活習慣が学習習慣に大きな影響を及ぼしていると考えられる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>・どの教科も「話し合い活動」を継続していく。身につけさせたい内容を考え、「どんなテーマで」「何を」話し合わせるのかを明確にする。</p> <p>・給食準備時間などを活用し、補充学習を行う。まず、学習する習慣を身につけることを優先する。</p>
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>・ゲームやスマホが及ぼす害について、学習参観・懇談会などのときに積極的に呼びかける。学校だよりや「子育て茶話会」でも呼びかけていく。</p>
